

科目名	体育講義A	科目責任者	関川 佳人
課題と試験担当教員	関川 佳人		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CGHPE131		

## ■ 科目概要

本書では、体育についての専門的に特に基礎的知識を主に講義を進めます。

### 1、体育の基礎的認識

第1章における、体育の概念（意義、目的及び目標とその課題6項目、方法と手段として体育財としての身体運動の考察）

### 2、体育に関したより善い歴史認識

第2章における、体育の歴史的考察（古代の体育、中世の体育、近代の体育、現在の体育、将来の体育）。スポーツマン・シップの再確認（ルール）

体系的に系統的に考究された内容面を含むことは自明の理であります。本書は、たとえば「体育...学」に片寄って論を進め、締結することから、むしろ履修者の方々にとって本講義がより善い体育に関した知識面を精査しより善い理解を深めることを意図しております。各章の講義内容を通読していく中で、その内容面について能動的に自らの技（体育財）として、大いに自得していただきたいと考えます。

## ■ 到達目標

本書の主な課題についての理解のために各章の熟読は、必ずや学習者にとって、より善い知識として自主・自立の精神で捉え、高い専門的教養の域まで善導すると考えます。「浅く読むことから深く読む、一方に偏り終わることなく、自発的な学習」が課題探求の道にもつながるか考えるからです。体育を考究することは文武二道を修めることです。丁度「車の両輪、鳥の両翼」を知るということです。本書において、たとえばレポートの提出ということは、実技におけるの発表や試合への参加とその結果と同じくらい大切なことです。是非、学習者として自らの心技体の向上を目指した鍛錬のためにも、一步、歩を進めた探究姿勢を願うものである。

具体的な目標として、

- 1、現在の体育・武道・スポーツ・レクリエーションの基礎的な課題への探求としての捉え方を理解する。
- 2、健康の概念と意義を理解する。
- 3、体育の安全性への認識を理解する。

などの目標の到達を意図します。そのための目的についても自明のごとく問い、理解を深めていきます。

## ■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章 体育の概念と課題 1、体育の意義 2、体育の目的及び目標	体育という言葉は古くは古代ギリシャ時代におけるジムナスチックからはじまり、現在のフィジカルエデュケーションに至るまできわめて多様なそれぞれ異なった立場より解釈がなされてきた、それは、人間を一つの有機体の身体面の発達、または身体適正にのみ限定した考え、体育を主として筋肉活動の発達（からだづくり）（身体教育）と考え、身体運動と体育を同義に理解し、運動即体育という考え方に終始してよいであろうか。「体育」という言葉の意味について共通的な理解に到達する最も良い方法は、今日、理解されているような「教育」という言葉の性質を理解して考えるならば「身体教育」でなく「身体活動を通しての教育」という観点から考えるべきである。身体形成に関する目標も一部として含みながらも、身体活動のもっている教育的機会（可能性）を利用して、全人的発達に貢献する教育いわゆる人間形成を目的とする教育（心身二元論的な考え方から心身一元論的考え方）への変化が見られなくてはならない。そこに体育の意義があり目的、目標が存在する。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章 3、現代体育の諸 課題 現代社会に要求す る体育課題	人の基幹系の発達に対する強い欲求である。これはいかなる時代にもあった人間的欲求であり、生活様式が変化してもその要請は一層強くなっている。健康な人間がその機能を果たし正常な発達を遂げるためには、幾分か筋肉活動が必要であることは解剖学上でもいわれており、また生活の経験によって実証されている。
第1章 スポーツ・武道が 現代社会に要求す る課題	スポーツは遊戯性・闘争性・協調性、ルール、美、友好などをその内容を有している。教育的機会としては武道も同様に、人間が段階的に進歩するための方策として、対人関係で大事な事柄には自由（認識）、共同、互譲、共感、積み重ね作業の結果として、いわば副産物として得ることができるものは、信頼・信用である、それが和をかもしだし、最後に全てに感謝の域に到達すると考える。この方策には、近道はなく急がば回れしかなく、順次、段階別な進歩・成長をはかることが大切である。例を挙げ、先人のたとえを引用させて頂いているのもそのためである。
第1章 体育の萎縮化 (安全性を中心課 題として)	この項では、まずはじめに試みていることは体育指導の場合、必ずしも怒らなくていいことが多い。指導する内容の知識を心得ていればである。不慮の事故について全てではないが、より能動的・楽しい体育活動の展開実施のための方途について例を挙げ説明を致しております。実技指導の参考にしていただきたいと願っています。
第2章 体育の史的概観 体育の史的研究の 意味 ギリシャの体育 ローマの体育	歴史は、湾曲して捉えることはいかなる場合も不可能です。歴史から何を学び今後にかけるかが、歴史を学ぶ意義があると考えます。ギリシャの体育での偉人達の論議している真意、身体的には古代オリンピック競技の審判員の棒でのスタートの真意、ユベナリスの詩編での真意などについて、歴史認識をより善く身に付けているならば、古代ギリシャ、ローマは今日、体育の進むべき方途について示唆し指摘している課題をも教示している事柄や内容が多々見受けられます。
第2章 中世の体育 近世の体育	古代と中世を割ることは困難であるが、ローマ帝国の滅亡から文芸復興期まで、5～15世紀の間約1000年間を中世とするのが通例とされている。この項では古代ローマ時代の末期のころの状態にキリスト教が行った精神主義思想は一方では体育が酒池肉林の真只中から体育という言葉を使用することすらできなかった状態にあった時、一度体育を否定されたことはこれ以上、荒唐しなかったことは一考すべきである。プラトンが「体育の目標は精神の改善である」をも想起する。文芸復興期の近世の体育に移行する。それは、古代の文化の再現ではなく、積極的な文化創造、人間形成を意味するものである。
第2章 明治以後の日本の 体育 現在の民主主義の 体育	明治5年（1872年）の「学制」が学校体育が制度化された。体操・体練といわれた時期からスポーツ時代へ移行した。大学スポーツの隆盛と1912年、第5回オリンピック大会へ初参加、(クーベルタンと嘉納治五郎の交遊) 思想的には複雑な国際関係を反映して、民主的な思想基盤から全体主義的な思想に移行した時代である。

## ■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	各1章2章の各項目について、熟読によってはじめて各章の基礎的な理解を問う。
レポート	レポートを書くときは、そのレポートが何を要求しているかを出題されている課題についての的を絞ってレポートを書いてください。

## ■ 評価方法

○科目試験：70%

○レポート：30%

## ■ 教科書

書名：体育概論

著者名：関川佳人編著

出版社名：創大通信教育部

出版年：

版：

刷：

**ISBN :**

## ■ 参考書

---

「体育概論」の末尾に参考文献を挙げています。

## ■ 履修上のアドバイス

---

各章は、より善い今後の体育・スポーツ・レクリエーションに関して、多くの場合、具体的例をあげて述べられています。一つひとつ熟慮して、問われる諸課題に忠実に捉えられたうえでの理解と意見を願います。

## ■ 自習時間

---

テキスト学習ですので、レポート1 課題あたり作成には十分熟慮され、問われる課題に対してまずは忠実に探求され、そのあと自らの意見を展開してください。

※1回（コマ）につき、2時間程の自習が必要です

## ■ 担当者のプロフィール

---

担当者のプロフィールにつきましては、教科書「体育概論」の末尾に複数の執筆者の紹介をしています。